

平成 22 年度滋賀県がん診療連携協議会 第 1 回診療支援部会議事概要

日 時 平成 22 年 6 月 29 日 (火) 17 時 30 分 ~ 19 時

場 所 滋賀医科大学 管理棟 小会議室

議 題

1 . 平成 22 年度会員の紹介

診療支援部会員として、病院薬剤師会から推薦の内諾をいただいている寺田智祐氏を紹介。

又、本学総合がん治療学講座醍醐教授を準会員として紹介。

2 . 5 月 26 日開催第 1 回企画運営委員会の報告について

資料 2 - 1 に基づき、企画運営委員会に診療支援部会の取組及び今年度の開催日程を報告した。

同委員会より、本年度の診療支援部会の取組について、医師の派遣について調査する中で、他府県等の事例も参考に派遣調整の仕組みを検討していただきたい旨の提案がなされた。又、高度先進医療についても情報提供できればとの提案がなされた。

3 . 5 大がんの調査結果について

5 大がんに対する現状調査 (資料 3) 結果を報告した。

がん診療にあたっておられる医師について、どのような専門性・専門医等資格と経験年数を持った医師なのかという問題点もあるが、これらをベースに具体的な問題点を今後検討していきたい旨の報告があった。

4 . 本年度の各団体の取組みについて

- ・ 県薬剤師会より、地域と薬剤師会とのかかわりについて、在宅支援の現状、連携を調査した。本年度は病院薬剤師会との連携をいかにするかを目標としたい旨の報告があった。

- ・ 県看護協会より、認定看護師、専門看護師が育成され、各病院で自助努力している中で、情報を整理調査し、人事交流ができればと考えている。又、先進医療は各病院の特色があるので、治療状況や看護について共有したい旨の報告があった。

- ・ 県放射線技師会より、放射線の機械と精度が異なるが、どこの医療機関でも同じような説明が受けられる説明文書を作成し、選択肢があると

いうアピールがあればいいのではないかと報告があった。

- ・ 県病院薬剤師会より、派遣は難しいが、人事交流の一環として会営薬局が症例検討会に参加している事例が報告された。

又、がん専門薬剤師は認定に5年間の研修を要するが、そのような対象者はいるが受入が難しく、週1回の症例検討会に参加していただいて、がんに関して薬剤の情報交換ができればと考えているとの報告がされた。さらに、先端医療（抗がん剤のPKの血中濃度解析）について、拠点病院薬剤師とネットワークができればと考えている旨の報告があった。

5. 医師派遣に関し、以下の議論が交わされた

部会として、医師派遣について、部会事務局より大分県他の都道府県拠点病院での対策を7月中にアンケート調査を行い、集計結果を報告することが確認された。

会員からは、以下の議論が交わされた

- ・ 事例があるかどうかわからないが、他県でも取組としてあげている。
- ・ 県のがん対策推進計画でも言われており、がん診療の診療支援することになるが、どうやれば積極的な対策となるのか。
- ・ 外来や手術に入り支援していくことの統一ルールを作ること及び費用負担のルールを作ること。
- ・ 診療内容で足りないところを大学に出向き技術をマスターしてもらうことも診療支援である。
- ・ 高度医療の推進の講演会も診療支援である。
- ・ 県の推進計画にも医師派遣調整をやるための仕組みを作ることがうたわれている。
- ・ 大学は診療に携わる医師、薬剤師、看護師等の育成や他の医療機関への人材支援に努め、その調整は協議会がすることになるのではないか。
- ・ がん診療のスタッフ不足の実情を掘り起こし、何が不足しているのかを具体的に把握する必要がある。
- ・ CT、内視鏡、手術、緩和等のニーズを調査するべきである。
- ・ 人材育成の大学として、滋賀県にとどまり、かつがん診療に携わる医師の育成が難しい現状の中で、拠点病院として地域の実情を把握していただくこと。
- ・ 医師の派遣で、県としてインセンティブをつけることはできないか。
- ・ 物理的な問題もあり、5から10年かけて解決していくことになる。

6. その他

高度医療の推進について（県成人病センターより提案）

情報を共有化し、いかに情報を提供していくか。セミナー、講演会を開催してはどうかの意見が出された。

本議題の啓蒙の一例として、大学から新たながん医療の開発に向けた取り組み「がんペプチドワクチン療法臨床試験」について別添資料により、本学醍醐教授より報告。

高度医療について以下の議論が交わされた

高度医療を患者さんからアクセスできるようにして、症例に対応できる情報（どこのホームページを利用するのか）の提供をすることが必要である。

このような議論は相談支援部会に投げかけることも案である。

大津日赤、成人病センター、滋賀医大はがん診療に関し、全県的な機能を持ち合わせており、その中での情報の共有化をするが、地域拠点病院のホームページでも情報提供を行う。結果、どこのホームページからでも県民が情報を得られるのが良い。

県としては広報等で一般論としての県民へ情報提供を企画していくことになる。

放射線技師会より、画像診断について、遠隔画像診断の取組みについて報告があった。

以 上